

いしづち

愛媛労災病院広報紙第19巻第2号

（通巻第92号）

2020年4月3日発行

発行人：院長 宮内文久

理念

当院は働く人々のために、そして
地域の人々のために信頼される
医療を目指します

基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に
推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、
以下のように宣言します。

【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質の医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の
決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

【患者さんの責務】

- 1) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 2) 医療に積極的に取り組む義務
- 3) 快適な医療環境づくりに協力する義務



消化器病センターの紹介	2
中四国ブロック研修会に参加して	3
南4階病棟紹介	3

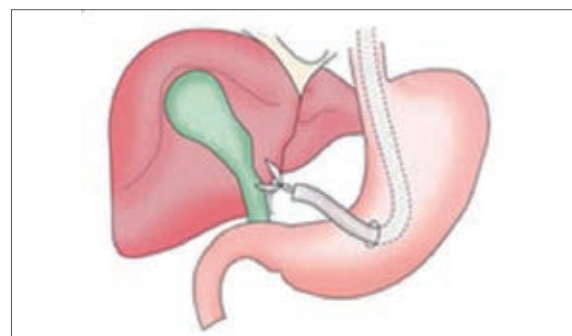
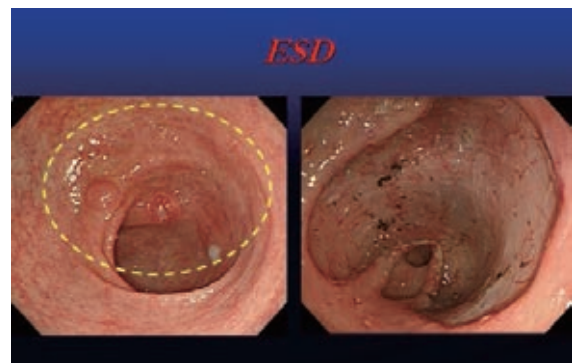
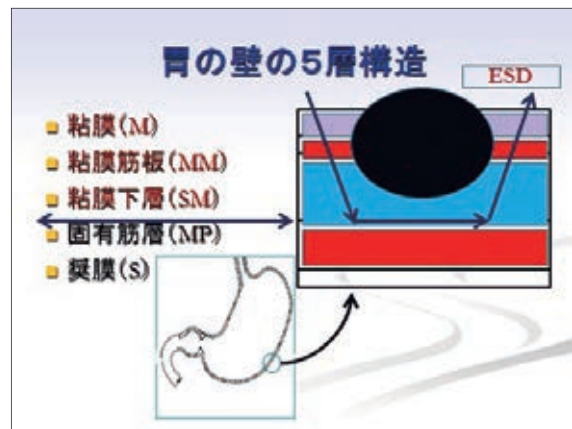
第6回 市民公開講座を開催しました	4
ふれあい看護週間行事のお知らせ	4

消化器病センターの紹介 ～身体に負担の少ない低侵襲治療・手術の提供～

消化器病センター長 消化器外科、
 聖マリアンナ医科大学 消化器・肝臓内科 特任教授 森 宏 仁

愛媛労災病院に消化器病（食道・胃・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓）を専門に診断・治療・手術するセンターが設置されました。当センターは消化器内科・消化器外科領域を網羅し、患者さんに、身体への負担の少ない高度・高難易度の治療を提供するために設置されたプロ集団です。その1つとして、早期食道癌・早期胃癌・早期大腸癌に対する内視鏡的・粘膜下層・剥離術（ESD）があります。ESDでの治療には、癌の大きさに制限がなく、口や肛門から内視鏡を挿入し、体に切開創を作ることなく病巣に到達し、内視鏡専用の電気メスで病巣を過不足なく切除する画期的な治療法で入院も1週間程度です。センター長は5,000例以上のESDを施行し海外でも指導してきた達人です。また聖マリアンナ医科大学と共同でESDをさらに進化させた内視鏡的・全層切除術（EFTR）を世界でも先駆けて導入予定です。EFTRを用いれば、これまで腹腔鏡や開腹手術で大きく切除していた臓器を最小限の切除に済ませ、臓器温存することが可能となります。画期的な低侵襲手術として注目されています。肝臓領域では経口のお薬である核酸アナログという薬でC型肝炎、B型肝炎を遺伝子レベルで排除することも可能で、これまでも多数の患者さんが完治しています。

胆嚢結石や総胆管結石に対する内視鏡的排石術も盛んに行っております。当センターは、高齢化社会において低侵襲治療を提供するため、日本消化器内視鏡学会の内視鏡専門医／指導医と内視鏡認定看護師で構成され、吐血や下血などの救急疾患にも対応可能で、かつ消化器癌に対する低侵襲治療も提供しています。



中四国ブロック研修会に参加して

主任理学療法士 堀内 桂

労災病院リハ技師は年1回の全国研修会の他に各ブロックで研修会を行い、互いの顔が見える関係を築いて、よりよいリハ医療の提供を目指しています。今回は香川労災病院にて開催され、愛媛労災リハビリテーション部の取組みをプレゼンしました。内容は病棟カンファレンス充実化により、看護部と連携して、患者さんの活動量拡大や日常生活動作改善につながっていること、そして治療と就労両立支援においては、就労者全員から情報収集して、支援を要する人を見逃さないようにリハ職のみならず、職員全体で関わっていることを紹介しました。

研修後半はグループワークで、各労災病院混合グループで将来像についてや理想の上司像、

失敗談や成功談など和やかな雰囲気で行われました。若手の参加が多く、熱い思いを持った技師の意見を聞き、入職した頃を思い出し、患者さんにできることがまだあるはずだと身が引き締まった次第です。リハ一同頑張ります。



南4階病棟紹介

看護師長補佐 山根 千春

平成28年9月より「地域包括ケア病棟」として生まれ変わりました。急性期病棟と在宅を繋ぐ要として院内外の方々と連携し、安心して退院していただくための病棟です。更に、今年は看取りや在宅介護のお手伝いとして短期間の入院(レスパイト入院)も受け入れました。

南館は陽当たりも良く、看護師もあつたかい病棟です。院内デイ「かもめ」では、新たな看護師個人の能力を発見しています。手先の器用さ、大胆なデッサン力。漢字や魚や花の名前、地理や歴史の一般教養。楽しいデイが終わった後には「あの元気な面白い看護師さん」と患者さん達

に愛されるスター看護師もいます。運動不足の私は、体操も脳トレも患者さんや若い学生に負けないように全力で取り組んでいます。

今後は、MSWやケアマネージャー・リハビリ担当者とお宅を実際に訪問して退院準備をしたり(退院前訪問)、退院後にお薬やインスリン注射・体調の確認にヘルパーさん達と協力して定期的に訪問したり(訪問看護)、病院だけではなく地域で看護を提供する機会を増やしていく予定です。皆さんが安心して暮らすために頑張ります。お困りのことがありましたら、いつでもご相談ください。



第6回 市民公開講座を開催しました

広報委員会 スタッフ一同

令和2年1月25日(土)、新居浜市市民文化センターにて、第6回市民公開講座を開催しました。

世界トップレベルの長寿国となっている日本では、長生きするだけでなく、健康に長寿を全うする考え方が広がっています。健康であり続けるためには、「病気の予防」に取り組むことが重要であるため、今回の市民公開講座では、「今日から始める予防医療～いつまでも元気に暮らすために～」をテーマとし、「整形外科領域」、「薬剤」、「リハビリテーション」、「生活習慣病」、「栄養」、「健康診断」に注目した6つの講演を行いました。

第I部講演では、はじめに「整形外科領域」について、当院の萩健太郎医師が講演を行い、骨粗鬆症に関する基礎知識や、早期発見・早期治療の重要性についてお話ししました。

続いて大成政揮薬剤師より、骨粗鬆症の治療に関する「薬剤」についての種類や効果、正しい服用についての講演を行いました。最後の「リハビリテーション」についての講演では、成田雄太郎理学療法士による、実演を交えた寝たきり防止に効果的な運動や、転ばない環境づくりについての情報提供を行いました。

第II部講演では、「生活習慣病」について、当院の山田耕司内科部長が講演を行い、内臓脂肪の増加や血管の老化等の生活習慣病の原

因や、それらの改善に効果的な正しい生活習慣の紹介をしました。次に、新居浜市保健センター管理栄養士の井手洋子先生に、「栄養」についてご講演いただきました。過剰摂取をすると、危険な病気の引き金になる脂肪や塩分、糖質等のとりすぎを防ぐための食事の工夫についてお話しいただきました。最後に「健康診断」について、当院の和田司保健師より講演を行い、健康診断を受診するだけでなく、過去の結果との比較や、その後の治療へ繋がることの重要性をお話ししました。

今回から初めて参加いただいた方も多く、市民の皆様健康について意識していただける大変有意義な講座となったと存じます。開催にあたり、共催をいただきました新居浜市および、ご講演いただきました皆様には深く感謝申し上げます。

また、ご好評をいただき令和3年1月30日(土)に、第7回市民公開講座を実施することが決定しました。来年度も市民の皆様の健康のためになる場を提供するため、スタッフ一同尽力していきたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。



ふれあい看護週間行事のお知らせ

令和2年5月13日(水)に、ふれあい看護週間行事を1F薬局前ホールで行います。

日程は右記のとおりです。皆様ぜひご参加ください。

10時30分～12時00分

看護相談・身体測定・骨密度測定

※11時00分～11時30分よりリズム体操を行います。

広報誌編集メンバー 委員長：福井副院長 委員：山田第2内科部長、今田看護副部長、荒井看護師長、山根看護師長補佐、横井看護師長補佐、加地看護師、大成薬剤師、西原作業療法士、正岡診療放射線技師、井上臨床検査技師、原田総務課長、岸本総務課員、中山診療情報管理士、越智総務課員